

都道府県別賞一等

生命保険と共に

茨城県 土浦市立土浦第四中学校 三学年

浅野 保乃華

私が小学生の頃に父は突然倒れました。あまりの衝撃と恐怖で私の理解は追いつかず、暫くの間体を動かすことができなかったのを覚えています。まさかこんな経験をする事になるなんて、思ってもいませんでした。

父が倒れた夜は、普段と何もかわらないように「普通の一日」でした。いつも通り遊んで、いつも通りテレビを見て、父が私と弟を眠りにつかせようと立ち上がって寝室へ向かおうとしたその時、父はいきなり倒れました。「苦しい」と言い残して次の瞬間には意識をなくしていた父。母はすぐに救急車を呼び、父は担架に乗せられて大きな病院に運ばれて緊急手術をしました。手術が終わったかと思えばそのまま集中治療室へ。何日も集中治療室で治療をされていた父。意識も戻らず、心肺停止状態に三回も陥り、私達は病院の先生から、

「今お父さんは非常に危険な状態です。いつ何が起こってもおかしくありません。」と伝えられ、その場にいた母は涙を流し、祖父も祖母も無言になってしまいました。家族全員が言葉で表せない程の絶望を抱き最悪な空気でした。先日までとても元気に一緒に遊んでいた父がいなくなるかもしれない。と小学生だった私は状況を理解するのは難しかったし受け入れられませんでした。

数カ月して父は退院しましたが、不定期に入院や手術を繰り返していました。ところで私の父はこんな期間を過ごしていた際に、とても助かったものがあると話していました。それは「生命保険」です。実は私の家は父しか仕事をしていないので、父の入院中は私達家族に収入が一切なかったと思います。そして父の入院費用や治療費・手術費などその他にも数え切れない程の多大なお金がかかっていたはずですが、ですがこの状況を乗りこえられたのは父が生命保険に加入していたからだと思います。このことについて気になった私は母に話を聞いてみました。すると、生命保険に入っていたおかげでかかった費用はほとんどゼロに近い金額だったといえます。保険ってすごいなと思いました。私は生命保険について自分でも調べ、知った今誰かに生命保険について話すことがあったら、「生命保険は私達の人生において欠かせないもので、いつも背中を押してくれる、そんな素敵なもの。」

と伝えたいです。父は生命保険に入っていたおかげで、家族に迷惑をかけてしまったり高額な治療を悩まずにすぐ受けられたことで、元気になれたと話していました。私達はこの先の人生で一体どんな病気になってしまうのかも、いつケガを

第62回中学生作文コンクール

してしまうのかも分かりません。だからこそ今できる「備え」をすることは大切だと思います。十分に備えていれば、もし万が一大変なことが起きても困らないし、安心できると思います。

改めて、私達が安心して楽しく毎日を過ごすためには生命保険が大事だと思います。将来私達が大人になって、医療が進化していけば今では考えられないようなことができるようになるかもしれません。ですが残念ながら治すことはできません、ケガを絶対しないなんて不可能だし病気にもなると思います。健康な今、私達ができることは「生命保険をよく知り、まわりに広げてみんなで加入すること」だと思います。